

一小的校内研修(一人1授業)

道徳科の学習

令和3年12月6日(月) 第3校時 5年3組

<主題名> 温かな思い「親切・思いやり」 資料「くずれ落ちただんボール箱」

<学習について>

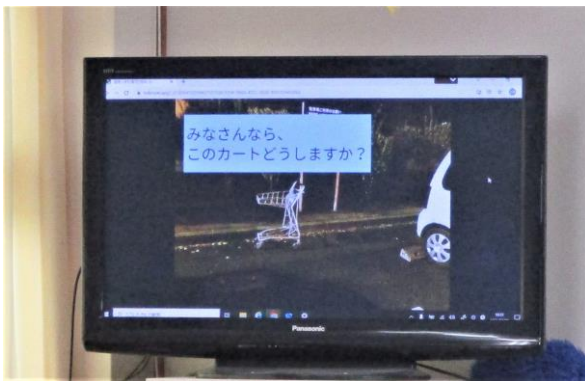
この学習は、次のような力を育てることをねらいとしています。

くずれた段ボール箱を直した主人公の心情について、友だちと話し合い、相手の立場になって考え誰に対しても親切にしようとする意欲を育てる。

資料「約束」は次のような話です。

ショッピングセンターに買い物に出かけた主人公が、積んであった段ボール箱を小さな男の子が崩してしまった場面に遭遇する。男の子が迷子にならないように、一緒に来ていた男の子の祖母に代わって段ボールを積み直していると、店員に段ボールを崩したと間違えられ注意を受ける。後日、店から学校へ誤解のお詫びと親切な行為への感謝の手紙が届く。

活動1 身近にある場面から、授業のめあてをもつ。



タブレット端末を使って「駐車場に放置されている買い物用カート」に目を向け、「あなたならどうする?」と問いかけました。それを手がかりとして、「親切とは何? 感謝されるから親切にするのか?」意見を交わし、今日の学習で考えていくこと「本当の親切には何が大切なのか考えていく」という学

習のめあてを立てていきました。よく出合う場面で、誰もが迷った経験をもっています。ここから資料をつかって「本当の親切」について考えていきます。

活動2 資料をもとに、思いやりと親切な行為の意味について話し合う。



タブレット端末に場面絵を提示し、教師が資料を読みました。話し合いの場面を効率的に焦点化することができ、話し合いに多くの時間を割くことができました、



話し合いながら、主人公の行動が及ぼす影響や店員に叱られた主人公の気持ちなどをとらえていきました。



授業の山場では「段ボール箱を直してよかったか」について、タブレット上のカードに自分の考えを記入しました。「直してよかった」立場の考えはピンク色のカード、「直さなければよかった」立場の考えは青色のカードを用いています。

こうすることで、考え方の違いが鮮明になります。



グループでの話し合いの一場面です。それぞれの考え方には違いがあります。
 左の写真：カードを示しながら、自分の考えを友だちに説明しています。
 右の写真：4人それぞれの立場の違いを確かめ合っています。
 話し合うことにより、自分の考え方が広がったり深まったりしている様子でした。



そして、再び「親切な行いをする時に大切なこと」を考えてみました。
 「相手を思いやる価値ある行為である」ことや「それには困難が伴うことがある」ことを学んでいたようでした。

活動3 これまでの自分をふり振り返り、これからの自分の在り方を考える。

ノートに
考えを書き、
発表して
授業が
終わりました。

